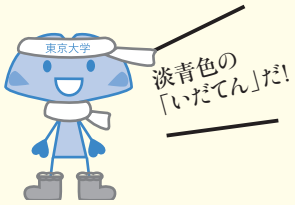
学内広報

2019.2.22 no.1519

第95回箱根駅伝で近藤選手が着用したユニフォームなど



志ある卓越。 東京大学 THE UNIVERSITY OF TOKYO

社会人リカレント教育を行う新会社

東京大学エクステンション、始動

4年越しの念願叶って箱根駅伝に出場!

近藤選手に聞いてみた

社会人のリカレント教育を行う、本学100%出資の新会社

東京大学エクステンション、始動

東京大学エクステンション株式会社
代表取締役社長

堀本勝敬さん

硬式野球部時代は右アンダースローのエースとして活躍した堀本さん。「4年のときは残念ながら1勝も出来ませんでしたが、1点差負けが7試合ありました。秋のシーズンに優勝した明治大学戦の初戦に先発し、完投したものの0対1で負けた試合もありました。今でもたまに野球はやります。去年、宮台選手のプロデビュー戦は応援に行きました」。写真は1986年の東京六大学野球秋季リーグ戦での勇姿です。

経営管理マネジメント、教育企画、営業などを担当する東京大学エクステンション株式会社の皆さん。4月からは6人体制で社会人のリカレント教育に臨みます。

代表取締役社長に聞きました

東大の価値を拡張・拡大する

――社会人教育を行う会社、でしょうか。

「現在、AI、IoT、ビッグデータなどを担う人材が全然足りていません。そこで重要なのが、社会人に対するリカレント教育です。一方、東大は2017年に指定国立大学法人となり、そうした事業を行う会社への出資ができるようになりました。そのような背景から生まれたのが、社会の要請が高い分野の社会人教育プログラムを手がける当社です。まずは非常に重要なのに圧倒的に人材が足りないデータサイエンスの分野から。カリキュラムは数理・情報教育研究センターが同センターの産業界コンソーシアム参加企業に対し行ってきた社会人トライアル講座を参考に構築しており、それらに関わった東大教員を中心に、30人前後の教員に授業を担っていただく予定です」

――他社より受講料が安いのですか。

「いいえ。指定国立大学法人の出資企業は民業を圧迫してはいけないという前提があるのです。当社の特長は、第一線の東大の先生が教えること、東大の授業と同様の高レベルの内容を扱うことです。受講の前提として、高校までの数学、技術系のコースでは大学学部レベルの微積分と線形代数の知識としています。他社ではここまで高く設定していないことが多いでしょう」

――事業を進める上で課題は何ですか。

「研究と学生の教育が本務である大学教員を迎えて社会人向けの教育体制を作るのは新しい取組みであり、課題は多々あります。多忙な教員の時間を確保するだけでも困難です。ただ、より柔軟に管理運営を行えるなどの利点があるから会社を作ったわけです。従来の社会人向けプログラムも参考に、よりダイナミックに事業を展開したいです」

――社名はどのように決めたのでしょう。

「当初は「協学創生」「未来創生」「未来社会開拓」といった候補も考えていたんですが、藤井先生から「エクステンション」という言葉が出てきて、総長に相談しました。「エクステンション」には大学の学外教育の意味もありますが、東大の機能をもっと拡張しよう、東大の価値を拡大しようという決意がこめられています。総長からは、国の施策の延長上にある事業だけに期待は大きいですよ、と激励をいただきました」

――ご就任の経緯を教えてください。

「昨年7月まではソニープロテクノサポートの代表取締役社長でした。私が創設から携った、ソニーの子会社です。放送用機材や映画館のデジタル上映システムをただ売るのでなく、ファイナンスをからめ、様々なサービスや機能を織り交ぜた新ビジネスモデルを構築し、提供する会社です。放送、映画、教育とデジタル化を進めましたが、そろそろ外に出て新しいことを、と思っていた頃に話をいただき、志願しました」

――医学部の卒業生でいらっしゃるとか。

「保健学科で学びました。当時は野球を中心に考えていて、スポーツ医学、栄養学、心理学等を野球部での活動に役立てたかったんです。家系に医師が多く、私も医師を目指そうかと考えたこともありましたが、よりオープンな社会で新しい価値を創造したいと考えるようになり、卒業後ソニーに就職しました。今回の話を受けたのも、社会人に大学と同レベルの教育を展開するという新しい価値創造に惹かれたからです」

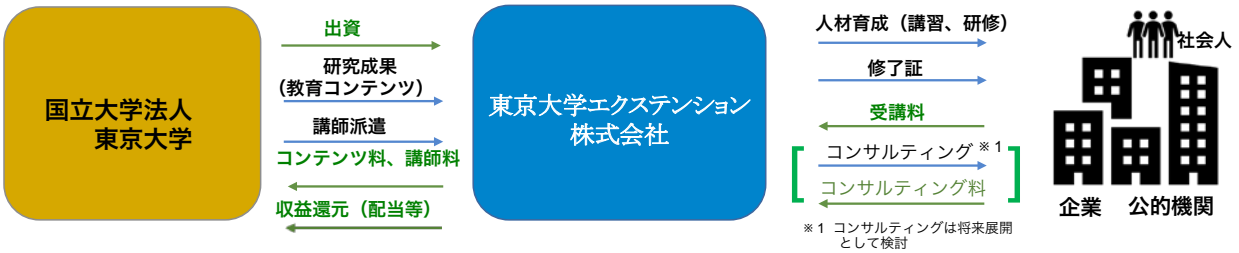
――データサイエンスも詳しいのですか。

「いいえ。ただ、野球部時代には、投手の配球や打者の挙動をノートに逐一メモして分析していましたね。統計学の授業も好きでした。多くの情報から法則性を見つけるのが統計学の基本で、その延長にデータサイエンスがあると思っています」

昨年12月3日、本学が出資比率100%の株主となる新会社が設立されました。指定国立大学法人の研究成果を活用する事業を行う東京大学エクステンション株式会社です。社会人向け人材育成事業等を事業内容に掲げるこの会社はどういうことをやるのか、オフィスに行って聞いてみました。温和な表情でリカレント教育を語る社長は、学生時代に神宮球場で活躍した本学の卒業生でした。

12月5日に行われた設立発表の記者会見にて。左は取締役を務める藤井輝夫先生。右は東大側で設立の中心となった石川正俊先生。

東京大学エクステンション株式会社　事業概要図　https://www.utokyo-ext.co.jp

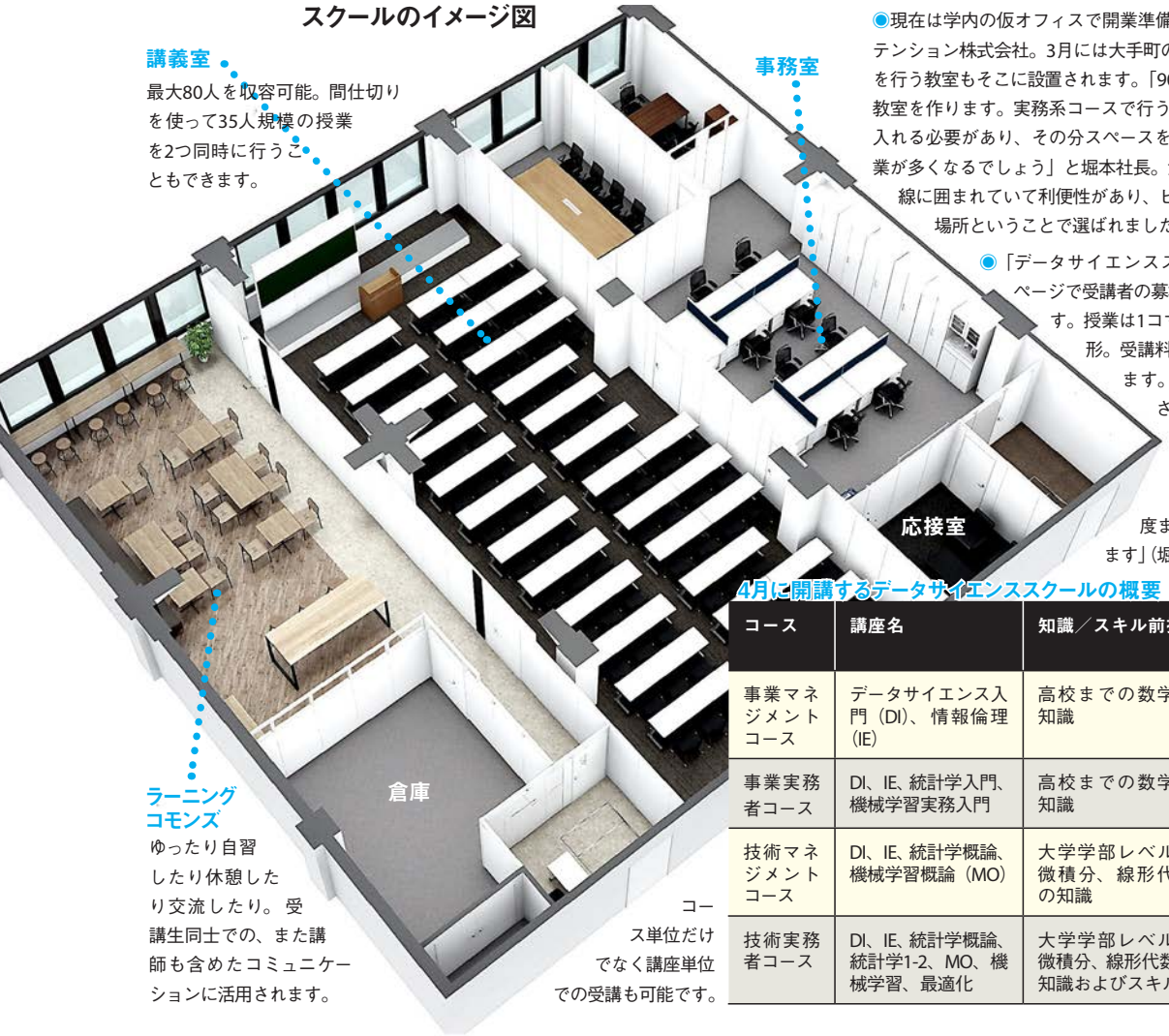


＊「知の協創の世界拠点」の形成に向けた取り組み
＊ 卓越した学術成果を基盤とした教育コンテンツの提供
＊「データ駆動型社会」に向けた取り組み

＊ 東京大学の卓越した研究成果を社会実装
＊ 主な事業
人材育成（講習、研修）
コンサルティング

＊ 幅広い企業および公的機関を対象
＊未来投資戦略としての人材育成
＊リカレント教育で人材を再活性

スクールのイメージ図



◉現在は学内の仮オフィスで開業準備を進めている東京大学エクステンション株式会社。3月には大手町の大手町ビルに引っ越し、授業を行う教室もそこに設置されます。「90坪ほどのフロアに80人収容の教室を作ります。実務系コースで行う演習スタイルの授業にはTAを入れる必要があり、その分スペースを使いますので、50人規模の授業が多くなるでしょう」と堀本社長。大手町ビルは、4つの地下鉄路線に囲まれていて利便性があり、ビジネス界でブランド力がある場所ということで選ばれました。

◉「データサイエンススクール」は2月15日にホームページで受講者の募集を開始し、4月から開講します。授業は1コマ90分で、週に2コマ受講する形。受講料は10万円弱～数十万円となります。「一つのコースを年間数回転させるイメージ。年間1000人程度、2022年度までで2500人程度の受講者数を見込んでいます。売上は2022年度までに10億円、を目標にしています」（堀本社長）。

4月に開講するデータサイエンススクールの概要

コース	講座名	知識／スキル前提	証書	コマ数（期間）
事業マネジメントコース	データサイエンス入門（DI）、情報倫理（IE）	高校までの数学の知識	受講完了証	4コマ（2週間）
事業実務者コース	DI、IE、統計学入門、機械学習実務入門	高校までの数学の知識	受講修了証	15コマ（約2ヵ月）
技術マネジメントコース	DI、IE、統計学概論、機械学習概論（MO）	大学学部レベルの微積分、線形代数の知識	受講修了証	8コマ（約1ヵ月）
技術実務者コース	DI、IE、統計学概論、統計学1-2、MO、機械学習、最適化	大学学部レベルの微積分、線形代数の知識およびスキル	受講修了証	37コマ（約6ヵ月）

東大ランナーとして14年ぶりに箱根路を疾走

近藤選手に聞いてみた

陸上運動部（工学部4年）

近藤秀一さん

「沿道の声援は確実に力になりました。見られていると思うとサボれない、という効果も感じます」と近藤さん。

近藤さんの愛靴は高校の頃からアシックスの「ソーティーマジック」。ただ話題の厚底シューズも試してみたいとのこと。

近藤さんが大好きなお菓子がブルボン「濃厚チョコブラウニー」。割引セールをtwitterでリクエストし、それを見た東大生協駒場購買部が応援キャンペーンの一環でセールを実施、それを知った近藤さんが来店して「濃厚チョコブラウニー」を大量購入し、陸上部員たちやtwitter民たちに配った、というナイスなエピソードが年末年始にあったそうです！

今回は予防接種を２回も！

――予防接種を2回も受けたそうですね。

「はい。ググったら効果があるようだったので。一人暮らしですが、不要な外出を控えたくて本番前の数日間は実家にいました。就寝時は常に加湿器をつけました。今回こそは絶対にスタートラインに立ちたくて」

――夏に脚をケガしていたとか。

「左膝です。練習のしすぎかなと思います。一応治りましたが後々まで引きずりました。今回万全の状態で臨めなかった一因です」

――1区を走ったのは希望通り？

「そうです。前回のリベンジをという思いと、自分が最初にがんばってチームに流れをもたらそうと思った部分もあります」

――レース前の目標タイム、着順は？

「64分、10番でしたが、結果は67分で22番。落胆しましたが、状態が慢性的に悪かったので納得の部分もあります。夏から抑えて調整すればもっとできたかもしれませんがそれだと本番に出られたかどうか……」

――twitterには「人生で一番悔しいレース」と書いていましたね。

「箱根は特別に楽しいはずと期待していました。その期待と現実との落差が悔しさにつながったと思います。箱根を走った人に聞いたら、最高にうれしいか最低に悔しいかの両極端でしょうね。一番苦しかったのは、品川をすぎ、集団から遅れた8～9kmあたりです。どこか痛いわけではなく、全体的にうまく走れていない感じで」

――でも襷をつなぐときは笑顔でした。

「チームの仲間と笑顔でつなごうと決めていたんです。寄せ集めのチームでそっけなく襷をつないだら、やっぱり寄せ集めだと思われる気がして。チームとしてがんばってきたことを体現する一つの方法でした」

――八田先生には何か言われましたか。

「本番前、アップのときに、ここまで来てくれてありがとう、といつもの先生の口調で。4年間見てきて、去年あんなことがあって……という含意を感じました」

新しい選択肢を示す喜びが

――工学部の研究室ではどんなことを？

「液晶分子を水処理膜の作成に応用する研究をしています。卒論のタイトルは「ペタイン部位を有する液晶のナノ構造制御と機能化」。いま必死に実験に励んでいます」

――加藤研究室を選んだのは？

「この分子をこう応用しようというのが見えていて、やりがいを見いだせそうな気がしたんです。限られた期間に何かこれをやったと形になるものがいいなと思って」

――進学先は総合文化研究科ですね。

「八田研究室で乳酸をトレーニングの指標に使う研究をやります。競技で感覚的につかんだものを深掘りしたい。競技と研究を相互にやると両方にいい影響が出ると思います。加藤先生も、自分の適性がある道を行くのはいいことだと言ってくれました」

――一方で企業にも入るんですよね。

「GMOインターネットに就職し、その陸上部に所属します。強い選手にもまれながら走る状況に一度身を置きたいと思っていた頃、研究しながらでもいいよと会社から言われたのがしっくりきました。他の道もありましたが自分は目新しいことをやるのが好き。大学院に行きながら実業団で走るのは男子長距離では例がないはず。こんな選択肢もあると示せるのがうれしいです」

――次のレースの予定は？

「5月のトラック……かな。状態を整えてベストのタイミングで出ます。その後はマラソンでどこまでいけるか。競技者の名刺となる2時間10分を2年以内に達成します」

――一昨年のシンポジウムでは色紙に「順」と書いていました。いまなら？

「「一区切り」。学生での陸上が終わり、次は社会人の立場で走ります。ここから次のフェーズに進むぞ、という気持ちです」

1月2日、東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）第95回大会に、陸上運動部の近藤選手が出場しました。東大ランナーの出場は第81回大会の松本選手以来。過去3大会でも選出されながら出場はならなかった箱根でついに念願を果たし、新年から学内に明るい話題を提供してくれた本人に話を聞いてみました。

ゆかりの皆さん３人にも聞いてみた

陸上部部長として近藤選手を見守ってきた八田秀雄先生

（総合文化研究科）

沿道でテレビで近藤君を応援いただいた皆様方、ありがとうございます。ご承知かと思いますが、今年の箱根駅伝は彼にとって4回目の最後のチャンスでした。去年の大会直前にインフルエンザになった記憶も残り、私も周りの関係者も正月が近づくにつれて楽しみと共に重い気分にもなっていきました。1月2日早朝、明るくなってきた大手町でウォーミングアップを始める彼の姿を見て、ようやく安堵できたくらいです。ましてや本人はもっともっと大会前から精神的にきつかったことと思います。

私は35年前に東大がチームで出た時には、コーチとして選手の後ろにつく伴走車に乗りました。あの時と変わらぬ応援の太鼓と歓声の響く大手町で、東大の選手が走る姿をまた見ることができました。鶴見では五神総長にもご声援いただきました。

強いプレッシャーを1人で受けとめ、無事に箱根駅伝を走れた彼自身のこれまでを褒めたいと思います。しかし実際には反省点も多々あります。それを忘れずに、これからは大学院生として科学的にランニングを研究しながら、実業団ランナーとして走り続ける近藤選手の今後に期待しています。

1区の選手のゴールとなる鶴見中継所で近藤選手にねぎらいの言葉をかけ、満面の笑みで握手を交わした五神真総長。応援には、境田正樹理事や加藤隆史先生（上写真右端）、八田秀雄先生（上写真左端）も駆けつけました。

化学生命工学科で近藤選手を指導してきた加藤隆史先生

（工学系研究科）

「近藤君、よくがんばりました。ご苦労様でした」と、私は最初に言ってあげたいと思います。毎日のトレーニングと学業生活を両立させてがんばりました。

彼の私の研究室での卒業研究テーマは、安全な水を作り出す機能を持った膜素材の開発です。少し専門的になりますが、自己組織化・超分子化という化学の手法により、直径がナノメートル（1ミリの100万分の1）以下の、水分子の大きさぐらいの孔が揃って空いている高分子膜を作ります。その膜により、飲めない水から塩やウイルスなどを効率的に取り除いて安全な水を作ることが目的です。分子を設計して、物質を自身で反応させて作った素材の構造や機能を、様々な機器を使って調べる研究です。

近藤君は研究室でもいつも明るく元気が良い爽やかな学生です。彼が実験中の体の姿勢はとても良いです。声をかけると、どの学生よりもすばやく私の元に到着します。研究室の懇親会などでも、会を明るく盛り上げてくれます。今後は大学院総合文化研究科で人間の運動の研究をするとのことです。スポーツと化学も密接な関係があります。工学部化学生命工学科で学んだ化学や生命・材料の知識・経験を生かして、益々の元気な活躍を祈念しています。

箱根駅伝と東大。

今大会の近藤選手は関東学生連合、第81回大会の松本選手は学連選抜での出場でしたが、東大はチームとしても過去に一度だけ箱根駅伝に出場しています。大学が少なかった時代の話と思われるかもしれませんが、違います。それは1984（昭和59）年の第60回大会。記念大会として参加枠が５つ増えた年でした（15→20）。予選会を7位で通過し、4年生6人、3年生1人、2年生2人、1年生1人という構成で臨んだ結果は、法大につぐ17位（優勝は早大）。1区を走った清水明選手は、卒業後は文部省（現・文部科学省）に入省、横浜国大理事・事務局長、香川大理事・副学長などを経て、昨年4月から新設された総合教育政策局の初代局長として活躍されています。その他の皆さんのご活躍ぶりも1月12日のTBS「消えた天才」で取り上げられていました。次代の「栄光の10人」が箱根路を疾走するのは果たして？

第 81 回で東大ランナーとして箱根を走った松本翔さん

（株式会社日税ビジネスサービス）

力を発揮できなかった。

近藤くんの走りを一言でまとめると、そういった印象でした。

私自身、大学陸上部の長距離コーチを拝命している立場です。なかなか部活に参加できないながらも、部員と連絡をとりながら、動向に注目していました。

そして最近の近藤くんの走りは、『はまると強い、はまらないと厳しい』というものでした。そして今回の箱根で、あいにく後者になってしまった印象です。3年生のときは練習も充実していた一方、4年生となったこの1年は、怪我もあって思うような練習が積めないことも多かったようです。

本来の実力は、他校のエースと遜色ないものだと感じます。だからこそ「力不足」ではなく、「力を発揮できなかった」という感想なのです。彼は卒業後、実業団選手として競技中心の生活を送るわけですが、箱根での経験・悔しさを糧に、日の丸を背負う選手になるよう、期待しています。

かくいう私も、現在は都内の企業に勤めながら、市民ランナーとして競技（マラソン自己ベスト2時間13分）をしていますが、新たに居住する渋谷区にて政治活動も始めました。私自身、箱根での経験を糧に頑張りたいと思います。

「淡青」27号（2013年）誌面より。「有望な選手がいて、学連選抜に選ばれるかどうか、楽しみです」と語っていた松本さん。その期待が現実に！

ひょうたん島通信

大槌発! 第48回

岩手県大槌町の大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センターのすぐ目の前に、蓬莱(ほうらい)島という小さな島があります。
井上ひさしの人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルともされるこの島は、「ひょうたん島」の愛称で大槌町の人々に親しまれてきました。
ひょうたん島から大槌町の復興、そして地域とともに復旧に向けて歩む沿岸センターの様子をお届けします。

沿岸センターとの関わり ～外から内へ

佐藤克憲 大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター 事務室　係長

私は2018年4月に当センター事務部へ異動してきたのですが、同年3月までは本学が岩手県内の東日本大震災復興支援の拠点とし、同月に閉室した「救援・復興支援室遠野分室」に4年9ヵ月間勤務していました。遠野分室では、本学で一番震災の被害を受けた施設である沿岸センターと、所在地の大槌町の復旧・復興状況を把握し大学本部へ報告する必要があったことから、私の前任者も含め、大槌町をかなりの頻度で訪れていました。センターの教職員の方とも、特に事務職員の方と定期的に情報交換を行い、協力関係を築いていました（まさか自分がそこへ異動することになるとは思いもしませんでしたが）。

被災前の旧センターには、震災前に知り合いの先輩職員が赴任しており、私自身岩手県出身ということもあって何度か訪れていました。その時の、多少古いながらも充実した施設・設備が記憶に残っていることもあり、遠野分室に来てセンターに関わってみて、被災前とのあまりの研究環境の違い（3階建ての建物の、3階部分のみ改修して使用。敷地内の他の施設・設備なども多くが使用不能）に、先生方から生物資源等の震災による影響などの調査・研究が進んでいるとお聞きしてはいても、本当のところはそれほど進んでいないのではないかと若干疑問も持っていました。

実際に自分がセンター内部の人間になってみると、震災後の早い時点から施設・設備をやり繰りしながら着実に調査・研究が進められていること、研究だけではなくその内容を分かりやすく一般市民に報告する活動を積極的に行っていること、新たな文理融合のプロジェクトを立ち上げ三陸沿岸地域の復興・振興に資する次世代人材育成を目指していることなどが分かり、心配が杞憂だったことに安心した次第です。

建物が再建されこれから設備も更に充実する沿岸センターの今後の研究・活動に、手前味噌ながら期待が膨らみますが、そのためには事務部のしっかりしたサポートが必要となります。私自身は現在、これまでに経験していない業務を担当しており、処理に未だ四苦八苦していますが、歴史あるセンターの建物が再建された年からサポート業務に携わることができるというのは貴重な経験であり、それを励みにして引き続きセンターの円滑な研究・活動の推進に尽力したいと思っています。

震災前の沿岸センター屋外施設（2006年8月撮影）

なお、今回で「ひょうたん島通信」は最終回となります。次回からは「ひょうたん島通信」第46回（no.1515）でご紹介した「海と希望の学校」の活動をお伝えしていく予定です。引き続きお付き合いのほどよろしくお願いいたします。

調査船 弥生のつぶやき

(「復旧」じゃない)「復興」は続くよ

国際沿岸海洋研究センターの調査船「弥生」と申します。皆様のご支援による竣工から早5年が経ちました。私の業務は沿岸海域の調査・観測ですが、センター界隈の最新トピックをお伝えするこのコーナーも担当しています。

このつぶやきが皆さんに届く頃には、いよいよ営業運転開始目前となっていますが、以前つぶやいた（no.1515参照）ように、2019年3月23日、おらが大槌の鉄道JR山田線宮古～釜石間が、三陸鉄道リアス線の宮古～釜石間として開通します。東日本大震災の津波被害により、線路が鉄橋ごと流失しましたが、丸8年の年月を掛けて再建、開通し、おそらく地元住民の皆さんに熱く歓迎されるであろう姿を想像すると、同じディーゼルエンジンで動く仲間として、我が事のように嬉しくなります。

写真は、今年1月下旬の試運転時のものです。再建された鉄橋の上を力強く疾走る姿は、地元の皆さんの生活の足としては勿論、今年秋に開催されるラグビーW杯会場（スタジアム最寄りの鵜住居(うのすまい)駅は大槌駅のお隣です）へ、外国からのファンも導くことを確信しました。長らくお付き合い頂いた私のつぶやきですが、今回を以てお休みを頂きたいと思います。

約4年間、本当に有難うございました。

フィールドは違えど、同じ心臓（エンジン）で動く仲間として、共にこれからも「がんばっぺし!!」

制作：大気海洋研究所広報室（内線：66430）

総長室だより　第19回

～思いを伝える生声コラム～

東京大学第30代総長　五神 真

三重県と締結した連携協定

1月下旬、スイスに出張し、世界経済フォーラムの年次総会「ダボス会議」に参加しました。私にとっては昨年に続き2回目の出席です。今回は安倍晋三首相が5年ぶりに出席し、6月の大阪サミットを世界的なデータ・ガバナンスが始まった場として記憶されるようにしたい、と述べて話題になりましたが、印象的だったことは他にもいくつかありましたので紹介しましょう。

一つは、日本人の坂野晶さんが議長として会議を進めていたことです。世界経済フォーラムにはGlobal Shapersという33歳以下のネットワークがあり、彼女はそのメンバー。若手リーダー6人の一人として今回の共同議長に選出されたのです。彼女が理事長を務めるNPO法人「ゼロ・ウェイストアカデミー」は、徳島県上勝町で自治体と連携してごみを出さない社会の実現を目指しています。細かい分別回収の導入で非常に高いリサイクル率を達成した町の試みは、少しずつ各地に広がっています。無駄を富に変える「サーキュラー・エコノミー」は、ダボス会議でも重要なトピックであり、彼女は首相にも負けない存在感を放っていました。

その坂野さんと、ダボスから帰国する前日になって会談の場を持つことができたのは、今回の収穫の一つです。ぜひ東大の学生とも活動をしてみたい、とお誘いを受けましたので、大学として何かサポートをできないかと思っています。坂野さんによると、ダボスで意気投合したある大統領との縁で徳島の取り組みを中米で進められるかもしれないとのこと。ローカルな試みがグローバルな展開につながることの好例だと思います。地球規模で知恵の出し合いが行われている最前線に日本の若い女性が立っていることに希望を感じました。

もう一つは、東大の3人の研究者がオファーを受けて「IdeasLab」というセッションに登壇したことです。自己修復プラスチックの相田卓三先生（工学系）、手術支援ロボットの原田香奈子先生（工学系）、バイオハイブリッドの竹内昌治先生（生産技術研究所）です。3先生は昨年秋から綿密に準備を進めてきたそうで、すばらしい発表がなされました。ダボス会議という重要な場で研究成果を広報したことは、3先生はもちろん東大のプレゼンス向上にも大きな貢献です。次回も毎回東大の研究者が呼ばれることを期待しています。

全体的には先進国全体が深い混乱に入り込みつつあるような印象を受けたり、著名なネイチャードキュメンタリー作家による海獣の新作映像を見て衝撃を受けたりもしましたが、この2件については明るい希望として学内の皆さんにもぜひ伝えたいと思ったのです。

UTokyo バリアフリー最前線！　第12回

東大の障害者雇用の現状を聞く

今回は、人材育成課職員管理チームにお邪魔して、東大の障害者雇用の概要について聞かせてもらいました。

職員管理チームの皆さん

――チームの業務内容を教えてください。

「施設部障害者集中雇用PTや各部局と連携しながら障害者の法定雇用率を順守する、というのが主な任務です」

――東大の障害者雇用の現状はいかがですか。

「昨年10月1日時点では180人が働いており、障害者の雇用率は2.53％です。障害者雇用促進法が定めている2.5％は達成しています。180人の内訳を職種別に見ると、用務補佐員等が78人と最も多く、以下、事務補佐員25人、教授・准教授・助教16人、特任専門職員15人、事務職員13人……と続きます。部署・部局別に見ると、本部が66人、理学系研究科16人、農学生命科学研究科14人、工学系研究科12人、先端科学技術研究センター12人……です。これ以外に、部局が独自財源で雇用している方もいらっしゃいます」

――多くの省庁や自治体で障害者雇用率の水増しが露呈しましたが、東大は問題なかったのでしょうか。

「もちろんです。雇用に際しては障害者手帳のコピー提出を義務付けていますので水増しはあり得ません」

――東大の障害者雇用の特徴は何かありますか。

「障害を持つ当事者の声を研究領域にもたらす活動を行う「ユーザーリサーチャー」、また、精神疾患の経験者が相談・援助業務等を行う「ピアスタッフ」を雇用しているのは大学ならではかもしれません」

――障害者の勤め先としての東大の人気は？

「評判は悪くないと思います。東大で働くというと親御さんが喜んでくれる場合が多いようです。昨年11月には「東京大学で働く～障害をお持ちの方へ～」という冊子を作り、部局・本部・バリアフリー支援室による「支援の三角形」という基本概念、勤労の現状、採用後の体制などをまとめて配布しました。多くの方に働く場としての東大を意識してほしいですね」

――今後の課題について教えてください。

「2021年4月までに法定雇用率が0.1％引き上げられることが決まっており、東大では10人程度雇用を増やす必要があります。その対応を遅滞なく行うのが当面の課題です。障害者だけでなく誰もが働きやすい職場を、全学の皆さんとともに目指していきます」

バリアフリー支援室　ds.adm.u-tokyo.ac.jp

ワタシのオシゴト 第154回

RELAY COLUMN

生産技術研究所
経理課 執行チーム
鈴木詩織

初の年度末に向けて!

毎日通る駒Ⅱキャンパス東門の前で。

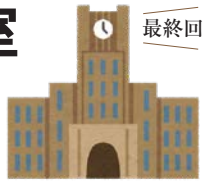
今年度4月に新規採用され、生産技術研究所へ配属されました鈴木です。私が所属している執行チームは、外部資金の執行全般を担当しています。調達や旅費についてはイレギュラーなものも多く、初めて聞く単語のオンパレードの時は、ひたすら勉強！です。また、経費元によって執行ルールや報告形式等は異なるため、複数のマニュアルを確認しながら業務を行う必要があり、根拠の重要性を日々感じています。まだまだ未熟者ですが、仕事ぶりもお人柄も尊敬できるチームの皆様に支えられ、業務に励むことができています。

私生活では、友人と食事に行ってひたすらおしゃべりすることが多いです。旅行やカメラも好きなので、時間とお金があれば国内でも海外でもいろんなところに行きたいと思っています。これからもワークライフバランスを大切に、年度末に向けて頑張っていこうと思います。

お気に入りの町「ハルシュタット」にて

得意ワザ：祖父伝授のタイピング
自分の性格：末っ子気質（たまにお姉さんのふり）
次回執筆者のご指名：前田幸子さん
次回執筆者との関係：同じチームでお世話になった方
次回執筆者の紹介：いつも素敵な笑顔の一児のママ

IRデータ室よもやま話



最終回

本部IRデータ課 課長 青木志帆

見せたいものは何ですか?

平成最後の年の瀬に、来年度の運営費交付金予算の一部（10,971億円の内700億円）が教育や研究等の成果にかかる客観・共通指標による評価に基づく配分となること、そしてその対象範囲は順次拡大していく方針であることが文部科学省から公表されました。さらに一月前の11月には中央教育審議会による『2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）』において「高等教育機関が生み出す経済効果や便益と、高等教育機関にかかるコストを明確にすることが重要」と明記されています。

大学に対する期待の裏返しという面もあるのでしょうが、日に日に強まる国立大学への風当たりに、「運営費交付金は教育研究を確実に実施するための補填財源だったはずでは？(法律にも書いてあるし)」、「学問は利を生み出すものではなく、純粋な知的好奇心の積み重ねのはずでは？(そもそも大学は出資者に利益を還元できる仕組みでないし)」とぼやきたくはなるもの。しかし、債務残高が1000兆円を超えるわが国の財政状況の前では、そのような正論も共感を呼びにくい状況です。やはり、大学が自らの価値と活動実態について、客観的指標を活用しながら丁寧に説明し、人材育成や研究の中核を担う「公共財」としての意義を世の中に問い続け、共感、共鳴に繋げることが必要です。

とはいうものの、多様な側面を持つ大学の実態や将来性を、指標でどこまで正確に測定し、表すことができるのか。設立して2年経つIRデータ室でも未だ解が見つかりません。優秀な学生を社会に送り出す仕組みの状況は表せても、長期的な視点での教育効果の測定は？ 多様性と卓越性に富む本学の研究活動度を測るのに、特定分野に偏らず、研究活動にも弊害を起こさせない方法とは？ 大学の学術成果が広く社会に還元できているかどうかを示す指標は特許関係だけなのか？ どうしても企業会計目線で見られてしまう大学の財務情報をどう工夫して伝えれば、実態を理解してもらえるのか？ 最適解を求め、様々な人と協働しながら、試行錯誤を続けています。

さて、IRデータ室コアメンバーによるリレーよもやま話も今回で最終回です。毎回お読みくださったみなさま、本当にありがとうございました。IRデータ室の目標である「公正で公平な大学秩序の確立と経営力の強化」、「国民への希望と安心の提供」に向け、これからも私たちは走り続けます。それではまた。有縁再見！

IRデータ室 ir-data.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

インターブリターズ・バイブル

第139回

カブリ数物連携宇宙研究機構教授
教養学部附属教養教育高度化機構
科学技術インターブリター養成部門
横山広美

平成の終わりに—美智子さまに学ぶ

若手研究者とお話をしたいと、天皇皇后陛下が当時勤めていた葉山御用邸近くの大学に内々に訪れられたのはもう15年も前のことである。緊張する10名ほどの若手研究者が待つ中、にこやかにお越しになった両陛下は、大学の中の日当たりのよい小さな食堂で、職員の方々が心を込め作った定食をきれいに召し上がりながら、私たちの話を熱心に聞いてくださった。

学長の指名で、美智子さまの隣に着席をした際には、ふわっとかぐわしい香りがした。緊張のしっぱなしであったが、美智子さまはとてもやさしくそして熱心に、次々と質問をされていった。熱心な質問は話者を勇気づける。思えば天皇陛下は科学者であられ、大変に忙しい公務の中、ハゼ類について多くの論文を書かれている。きっと日常の中でも美智子さまは科学者天皇の研究のよい聞き手でもおられるのだろうと拝察した。

SNS時代、科学技術に関する話題も常にSNSをにぎわせている。ワクチンや震災後の被ばくに関することはその代表例と言えるであろう。対立する意見の中で足りないのは、対話の基本である、聞く力ではないだろうか。アラブの春がおこる前、インターネットを用いた議論は、広く民主的な議論が促されるのではと期待を持たれていた。しかし次第に、同じ意見を持つ似た者同士が固まり、情報空間としても好みの情報空間「フィルターバブル」に包まれるようになる。

新聞社などが行う「世論」調査を皆さんは「よろん」というか「せろん」と読むか。どちらも正しいが、戦前においてその漢字も意味も同一のものではなかった。輿論（よろん）は文字メディアを通じていわゆるオピニオンを述べるもの、世論（せろん）は映像メディアで伝えられる空気感であった。SNSではフィルターバブル現象に加えて輿論と世論が入り交り、世論を加速する映像情報もぐっと増えた。両者が融合することもあれば、引き裂かれていくことも多い。

熟議と呼ばれるミニパブリックスへの期待もその手間の大きさから限定的だ。専門家集団としては輿論を発することに熱心である。しかしそれだけでは状況は改善しない。単純な解はないであろうが、複雑な状況に耐えながら対話の基本である聞く力を鍛えることに救いがあるのではと平成の終わりに思う次第である。

科学技術インターブリター養成プログラム
science-interpreter.c.u-tokyo.ac.jp

蔵出し！文書館

ぶんしょかん

The University of Tokyo Archives

第18回

収蔵する貴重な学内資料から
140年に及ぶ東大の歴史の一部をご紹介

東京帝国大学運動会設立願

「東京大学運動会」と聞くと、学校行事の「運動会」を想像する人が多いのではないでしょうか？ 東大では組織の名称として「運動会」が使われています。

運動会の設立は今から133年前に遡ります。帝国大学令によって、校名が「帝国大学」となったのは明治19年3月。その4ヶ月後の7月に、任意団体「帝国大学運動会」が設立します。明治31年には文部大臣の認可を受け社団法人化、大正9年には、文芸、音楽などを加えて組織を拡張した「社団法人東京帝国大学学友会」となります。しかし、昭和3年2月、それまでの学友会の対立が元で運動部は学友会から脱退します。この時新しい「運動会」設立のために奔走したのが、後に東京都知事としてオリンピック（昭和39年開催）招致に関わった東龍太郎（「いだてん」では松重豊さんが演じています）。当時医学部助教授だった東と医学部教授長與又郎の連名で、昭和3年11月12日「東京帝国大学運動会設立認可願」（S0007/23検印録 下巻 昭和三年）を総長代理であった小野塚喜平次宛に提出します。

この願は同月29日に評議会で可決されます。『運動会報』創刊号（昭和9年発行）では、「運動会の設立当時を語る」と題した座談会で、東を含めた関係者らが当時の苦労などを語っています。「運動会」はその後、昭和9年には財団法人化、平成25年には一般財団法人へ移行し今日に至っています。

その他に「運動会」に関する資料として、当館所蔵内田祥三関係資料の中にもみることができます（F0004/A/11/8~11）。ア式蹴球部（サッカー部）部長をしていた内田は、運動会資料（昭和7～13年）をオリジナルファイルに綴じて保管していました。当時の運動会のパンフレットや収支簿、第二食堂のプールに関する資料なども綴られています。（事務員・村上こずえ）

学生時代漕艇部だった東の姿が祝勝会の写真で確認できます（前列左から2番目）。

東京大学文書館

トピックス

全学ホームページの「UTokyo FOCUS」(Features,Articles）に掲載された情報の一覧と、そのいくつかをCLOSE UPとして紹介します。

掲載日	担当部署	タイトル
1月15日	本部入試課	平成31年度大学入試センター試験　東京大学本郷試験場建物配置図
1月15日～2月5日	本部広報課	猫を愛し、猫に学ぶ。｜キャンパス散歩・富士癒しの森研究所｜寿命は何が決めるのか｜死に近づいた人生を生き切るのに必要な医療とは？｜広報誌「淡青」37号より
1月16日	附属図書館	電子展示『捃拾帖』[くんしゅうじょう]の公開
1月17日	本部広報課	平成30年度退職教員の最終講義2月開催分のお知らせ
1月23日	宇宙線研究所	ハイパーカミオカンデの第一回予算検討会議(HKFF)を開催
1月23日	グローバルリーダー育成プログラム推進室	住友商事株式会社との覚書締結について
1月23日	農学生命科学研究科・農学部	匂いの価値や質が決まるしくみを受容体レベルで解明
1月24日	史料編纂所	国宝豊臣秀吉の刀狩令および幕末の薩摩切子を完全復元
1月25日	本部施設企画課	エコプロ2018展が開催され、TSCP学生委員会が参加しました。
1月25日	農学生命科学研究科・農学部	植物における「匂い受容体候補」の発見
1月25日	広報戦略本部／ヒューマニティーズセンター	「人間とは何か」を一緒に考える
1月31日	本部広報課	三重県と締結した連携協定　｜　総長室だより～思いを伝える生声コラム～第18回
2月4日	総合研究博物館	哺乳類の体重の進化には歩行様式（足の着き方）が関係していた
2月4日	グローバルキャンパス推進本部／本部国際戦略課	IARU学長会議に五神総長が出席
2月5日	附属図書館	デジタルアーカイブ「石本コレクション」の公開
2月8日	医学系研究科・医学部	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた受動喫煙対策に関する国会議員アンケート
2月12日	人文社会系研究科・文学部	高機能自閉スペクトラム症の手指運動に見られる薬指優位

CLOSE UP

ハイパーカミオカンデの第一回予算検討会議を開催

（宇宙線研究所）

約50人の参加者で記念撮影。

2020年代後半の実験開始を目指すハイパーカミオカンデ(岐阜県飛騨市神岡町)の建設について、関係各国が議論する第一回予算検討会議が1月11日、本郷の小島ホールで開かれました。ハイパーカミオカンデ（HK）は、スーパーカミオカンデの約8倍の有効質量を持つ巨大水タンクとそのタンク内の超高感度光センサーからなる実験装置で、陽子崩壊の発見やニュートリノのCP対称性の破れの発見、超新星爆発ニュートリノの観測などを目指しています。

今回の会議は、次世代ニュートリノ科学連携研究機構(NNSO)が各国政府等に呼びかけて企画したもので、14カ国から政府機関関係者および研究者を加え、約50人で開催されました。

会議では、梶田隆章所長、五神真総長、文部科学省研究振興局の磯谷桂介局長が挨拶。各国の共同研究者たちの研究内容や貢献、日本でのプロジェクトの進展などについて、HKFF会議が今後も継続的に確認することで合意しました。

翌12日には共同研究者を含む約25人が、飛騨市神岡町のスーパーカミオカンデを訪れ、水がほぼ満たされたタンク内を視察しました。

CLOSE UP

IARU学長会議に五神総長が出席

（本部国際戦略課）

参加大学の集合写真©Oliver Bartenschlager / ETH Zürich

1月21日、スイス連邦工科大学チューリッヒ校において、第14回IARU学長会議が開催され、五神真総長、藤原帰一総長特別参与（法学政治学研究科）、菊池康紀准教授（IR3S）が出席しました。本会議では、各加盟大学を取り巻く国内外の情勢や各大学内の施策等について情報交換が行われ、Times Higher Educationからモデレーターを招き“Skills for the 21st Century”をテーマにしたディスカッションを行ったほか、社会の大きな転換に対して大学が果たすべき役割について活発な議論が行われました。また、2019-20年は本学がIARU議長校となるため、UC Berkeleyより議長校の引き継ぎが行われ、五神総長からは、今後本学がIARUのリーダーシップを取るにあたっての抱負が述べられました。

CLOSE UP

住友商事が「東京大学GLPリーディング・パートナー」に

（GLP 推進室）

住友商事株式会社の兵頭誠之社長と五神真総長。

国際社会における指導的人材を育成するGlobal Leadership Program(GLP)。住友商事株式会社様にはGLP-GEfILプログラムの設立時からご支援をいただいてきましたが、2018年からはより積極的なご支援を行うことを決めていただき、本学からは同社へ「東京大学GLPリーディング・パートナー」の名称を進呈することになりました。12月18日には五神真総長が住友商事様を訪問、兵頭誠之社長との間で覚書を交わしました。また、これを機に組織間の協力関係の発展について意見交換を行いました。東京大学はFSIの活動を通して学内の多様な研究のシナジーを見出してSDGsに貢献することに取り組んでいます。住友商事は6つのマテリアリティ(重要課題)を制定し、それらを経営の根幹に据える取り組みを行なっています。グローバル社会の課題を乗り越え、より良い未来を築いていくために、総合商社と東京大学のコラボレーションで色々なことができそうだ、とディスカッションは大いに盛り上がりました。

CLOSE UP

秀吉の刀狩令と幕末の薩摩切子を完全復元

（史料編纂所）

復元された「刀狩令」。

復元された薩摩切子の軸端。

史料編纂所所蔵の国宝『島津家文書』は旧薩摩藩主島津家に伝来した史料群です。史料編纂所は2015年度から「原本史料解析による複合的史料研究の創成事業」を始め、様々な研究を行っています。その一環として、豊臣秀吉の出した「刀狩令」の復元に成功しました。

「刀狩令」が書かれたのは「大高檀紙」という特殊な高級紙です。今回、大高檀紙を料紙とする古文書が多数貼り継がれた「御文書」という巻物を修理する段階で成分分析を行いました。これに基づき、全く同じ材料・分量、製法によって「大高檀紙」を復元。史料編纂所史料保存技術室で撮影した高精細史料画像をもとに、微妙な諧調再現が可能なコロタイプ印刷（(株)便利堂）で復元用紙に文書本文を印刷しました。

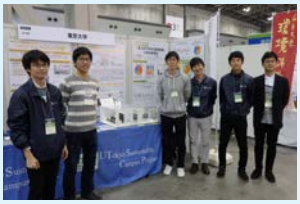
「御文書」の一部には、幕末の薩摩藩が作製したガラス（薩摩切子）の軸端が付されていますが、伝来の過程で紛失・破損したものも少なくありません。薩摩切子の製作技術を復興した株式会社島津興業（代表取締役社長：島津忠裕氏）のご協力を得て、ガラスの軸端を複製しました。復元した軸端を修復済みの巻子原本に取り付け、「刀狩令」の複製にも活用しました。

こうして、文書発給当時の状態と、島津家で保管されていた時の状態の2種の複製品が完成。レプリカは島津本家に贈呈し、活用いただくことになりました。併せて島津興業より史料編纂所に奨学寄付金の贈呈が行われました。

CLOSE UP

TSCP学生委員会が「エコプロ2018」展に参加

（本部施設企画課）



TSCP学生委員会集合写真（一部メンバー）。

「SDGs時代の環境と社会、そして未来へ」をテーマにした「エコプロ2018」が、12月6日から8日まで東京ビッグサイトで開催されました。「エコプロ」とは、アジアを代表する環境総合展として、あらゆる分野にわたる最先端の環境製品・技術が一堂に会するものです。

本学からはTSCP（東京大学サステイナブルキャンパスプロジェクト）に所属する学生委員会「UTokyo Sustainability」（2015年7月発足）の学生が中心となって、TSCPの紹介やUTokyo Sustainabilityの取り組みなどをパネル展示や模型展示で紹介しました。

会場では、子供から年配者まで幅広い方々がブースを訪れ、学生の説明に耳を傾けました。展示準備から説明まで学生が企画・運営を行い、普段は学べない貴重な体験活動となりました。

【紹介内容】

パネル展示：TSCP紹介、TSCP学生委員会紹介、ドラフトチャンバー非使用時に前面扉を閉める(SHUT THE SASH)活動紹介、「東大生のSDGs意識調査」分析報告結果、学園祭時のキャンパス電力消費の調査　　模型展示：本郷キャンパスCO_2排出量模型、駒場キャンパスCO_2排出量拡張現実(AR)画像、実験室模型

CLOSE UP

デジタルアーカイブ「石本コレクション」を公開

（附属図書館）

地震鯰の取り調べ

総合図書館と地震研究所では、第二代東京帝国大学地震研究所の所長である石本巳四雄（いしもと みしお,1893-1940）の旧蔵書をそれぞれ所蔵しています。 総合図書館で所蔵している資料群の中には、地震や火災に関するかわら版や鯰絵などから成る「石本コレクションI 地震火災版画張交帖」と「石本コレクションII」があり、「石本コレクションI」は2008年からインターネット上での公開を行ってきました。そしてこの度、「石本コレクションII」のデジタル化が実現し、IとIIをあわせた新たな「石本コレクション」サイトを公開しました。石本巳四雄が収集した、江戸から明治期にかけての災害関連資料をご覧いただけます。どうぞご利用ください。https://iiif.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/repo/s/ishimoto/

七徳堂鬼瓦

ゲノム編集ベビー誕生の衝撃

ゲノム編集技術という言葉を聞いたことがある人は多いと思います。生物の遺伝情報であるDNAを自在に改変できる技術です。そして、昨年11月末の衝撃的なニュースも覚えている方は多いのではないでしょうか。そのニュースとは、中国の研究者（賀建奎准教授、南方科技大学）が「ゲノム編集」技術をヒト受精卵に応用し、その遺伝情報を書き換え、実際に双子の女の子が誕生したという内容でした。香港で開催された第2回国際ヒトゲノム編集サミットの直前のことでした。私は現在、日本学術会議のゲノム編集技術に関する分科会の委員長を拝命しており、国際ヒトゲノム編集サミットでの賀准教授の講演のビデオ配信を、本郷の居室から固唾を飲んで聞いていました。私は、国際的な合意もなく、秘密裏に実験して、パンドラの箱を開けてしまったこの行為に、強い憤りを覚えました。

ゲノム編集技術は、未だ発展途上の技術で、予期せぬ副作用の懸念があり、さらに親が子供の形質を自由に変えるデザイナー・ベビーへの道を開く可能性を秘めています。したがって、ヒト受精胚への応用は学術的にも、社会的にも許容されていません。今回賀准教授のグループが行ったことは、エイズウイルス陽性の父から子供への感染を防ぐ目的で、子供のゲノムを改変したのです。しかし医学的にはゲノム編集以外の方法があったこと、また被験者へのインフォームドコンセントも不十分であったことなどから、賀准教授の行為は売名行為に近いと非難されています。ゲノム編集技術は画期的で簡便なため、今は基礎研究では欠かせません。実際、私の研究室では大学院生が日常的にこの技術を使っています。それだけに、悪意を持った使用の懸念が広がっています。我々は急速に進展する生命科学技術の光と影を目の当たりにしています。人類の歴史に汚点を残さぬよう、国際協調と国内外での熟議を通して、この事態に立ち向かわなくてはなりません。

武田洋幸
（理学系研究科）

東京大学広報室
no.1519 2019年2月22日

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号
東京大学本部広報課 TEL：03-3811-3393
e-mail：kouhoukikaku.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp
www.u-tokyo.ac.jp